

女の子を買って
一緒に冬ごもりする話





この辺りの冬は厳しい



秋の間に食料を保存し



春になるまで
冬こもりを行うのが慣習だ



しかし、全ての家が万全の状態
で冬を迎えられるわけではない

毎年怪我や病気などで
十分な食料を確保できない
家が数軒出てくる



その対応策の一つに、
独り身の男の家に
「家事手伝い」として
妻や娘を預け、



その代価に食料を
分けてもらうというものがある

家事手伝いというのは
外間を意識した名目だ



今夜からいよいよ



家に籠るしかないこの時期に
わざわざ雇う必要はない



ニクニク

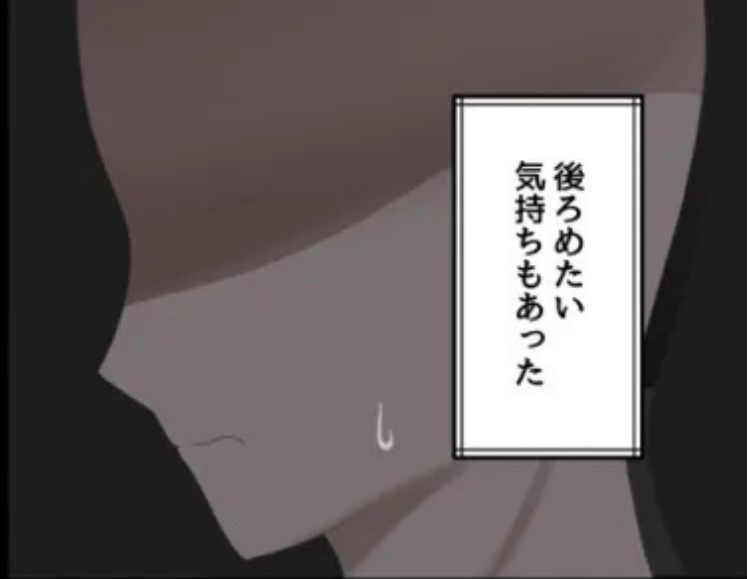
この時期は一年で
一番時間に余裕のある
時期でもあります、

過ごし方次第で
この時期への印象はガラリと変わる

…暗黙の了解として

冬の間、彼女のことを
好きにして良いことになっている





後ろめたい
気持ちもあった



しかし、彼女が自分から
ベットへ登り、

キッ



体を差し出した瞬間
跡形もなく吹き飛んだ

彼女とは
今日までほとんど
面識はない

彼女の父親と
少し付き合ひがあり、
昔ちらりと
顔を合わせた程度だ

フル
フル

こんなに自分好みに
育っているとは
思ってもみなかった

彼女とは
今日までほとんど
面識はない

彼女の父親と
少し付き合ひがあり、
昔ちらりと
顔を合わせた程度だ

フル

フル

ジュッ

ジュッ

こんなに自分好みに
育っているとは
思ってもみなかった

彼女とは
今日までほとんど
面識はない

彼女の父親と
少し付き合ひがあり、
昔ちらりと
顔を合わせた程度だ

フル
フル

こんなに自分好みに
育っているとは
思ってもみなかった

彼女とは
今日までほとんど
面識はない

彼女の父親と
少し付き合ひがあり、
昔ちらりと
顔を合わせた程度だ

フル
フル

こんなに自分好みに
育っているとは
思ってもみなかった



女日照りの生活が
しばらく続いていたこともあり
少し手荒くなってしまったが



彼女は拒むことなく
受け入れた



義理堅いからなのか、
気弱な性格だから拒めないのか、
どんな子なのか知らないまま
彼女を犯した



うーん……



対価はそれなりに高く、
取引に応じるべきか
悩んだが、



この子の体を自由に
できるなら安いものだ



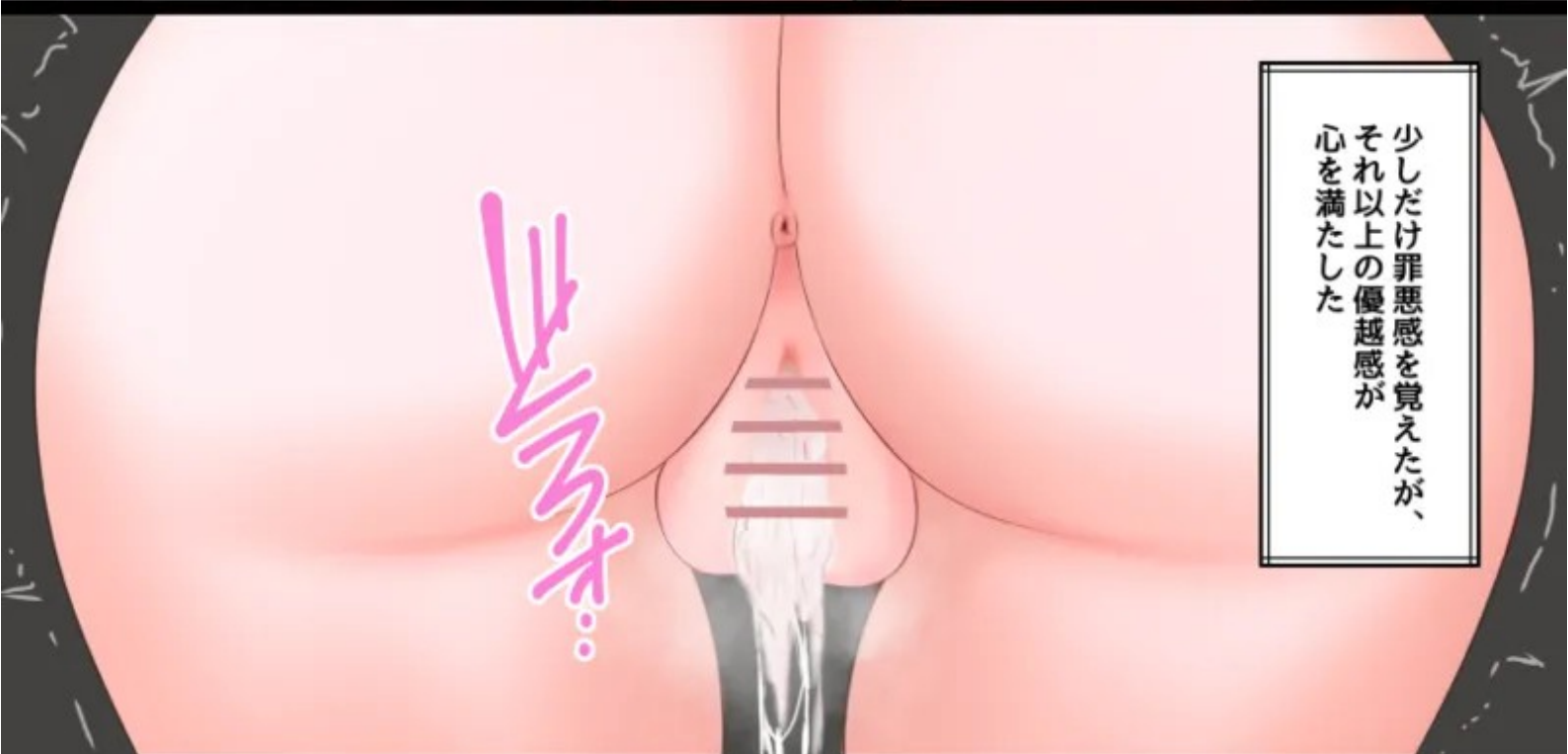
取引に応じて正解だった







結局、
最後まで拒むことなく
受け入れた



少しだけ罪悪感を覚えたが、
それ以上の優越感が
心を満たした



一度や二度では
到底満足できない

はぁっ

はぁっ



まだ大丈夫？

ヒュー



何度も何度も、
朝日が昇るまで
彼女を犯した

アロ



それからという日、
やりたい時
やりたいように
彼女を抱いた





この家にベッドは
一つしかなく
一緒に眠っている



ここ最近では
朝勃ちを彼女で
処理するのが習慣だ

彼女もここでの生活に
慣れつつある



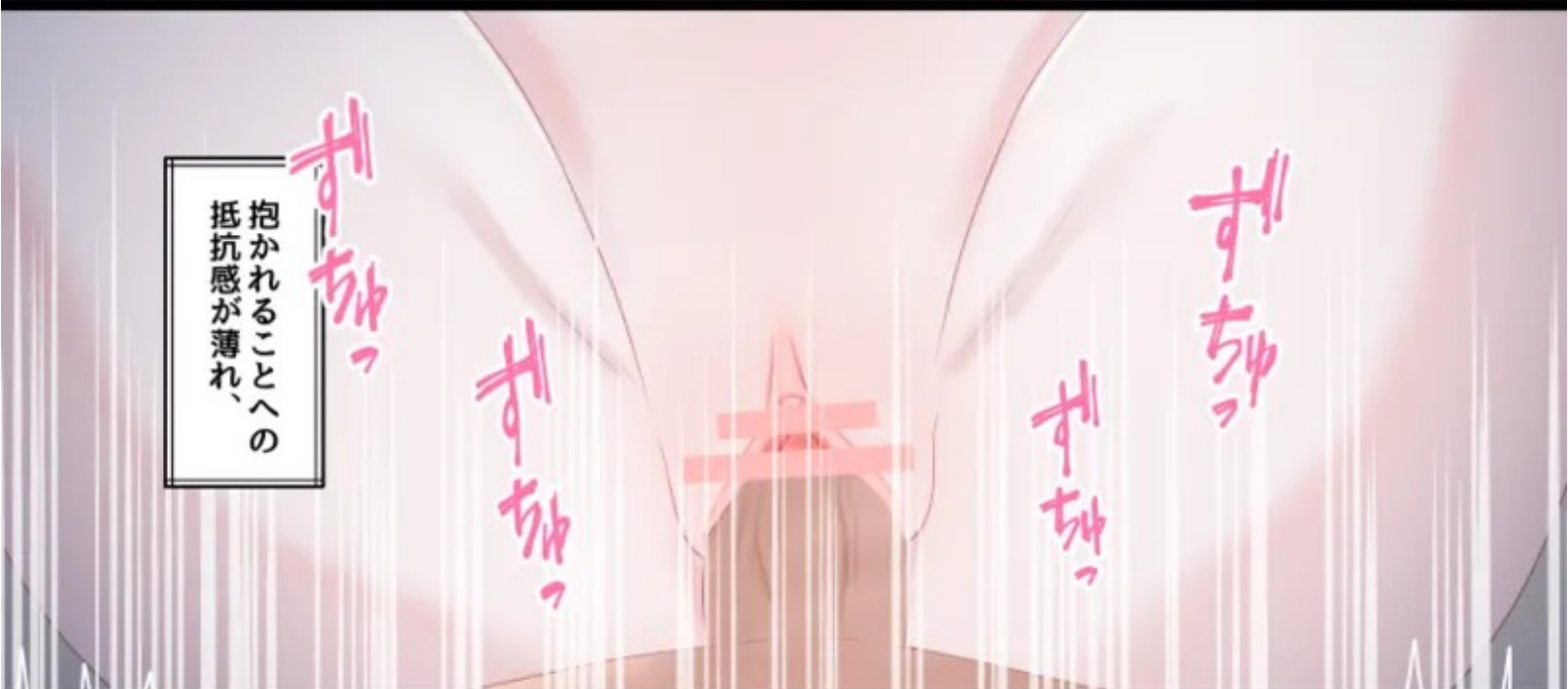
抱かれることへの
抵抗感が薄れ、

すぢゅっ

すぢゅっ

すぢゅっ

すぢゅっ



肉体的な相性も
日に日に良くなってきている

ハッ

ハッ

ハッ





何度抱いても飽きそうにない



彼女の心も体も

ここでの生活に
慣れるように、

自分に合わせるように
変化しつつある

そのことに快感を
覚えてしまっている
自分がある

はまっ
はまっ

ぽぽ
♡



部屋が温まるまで
このままでもいいかな

ムムム
ムムム

冬ごもりを初めて
2ヶ月が経った

毎日勃たなくなるまで
彼女を抱いている



一日中狭い空間で
ずっと一緒に過ごしている

仕事も娯楽も
限られている中、



そんな中、
気兼ねなく抱ける女が
いつもすぐ近くに
いるのだ



少しでも
ムラムラすれば
その度に抱いた

ギンッ

ちゅるるっ♡
ちゅるるっ♡

コッ

ちゅるるっ♡

ちゅるるっ♡

ふはあ

彼女にも明らかな
変化が訪れた



初めの頃は
ひたすら受け身だったが、



今では快楽を得ようと
性に対して積極的になった





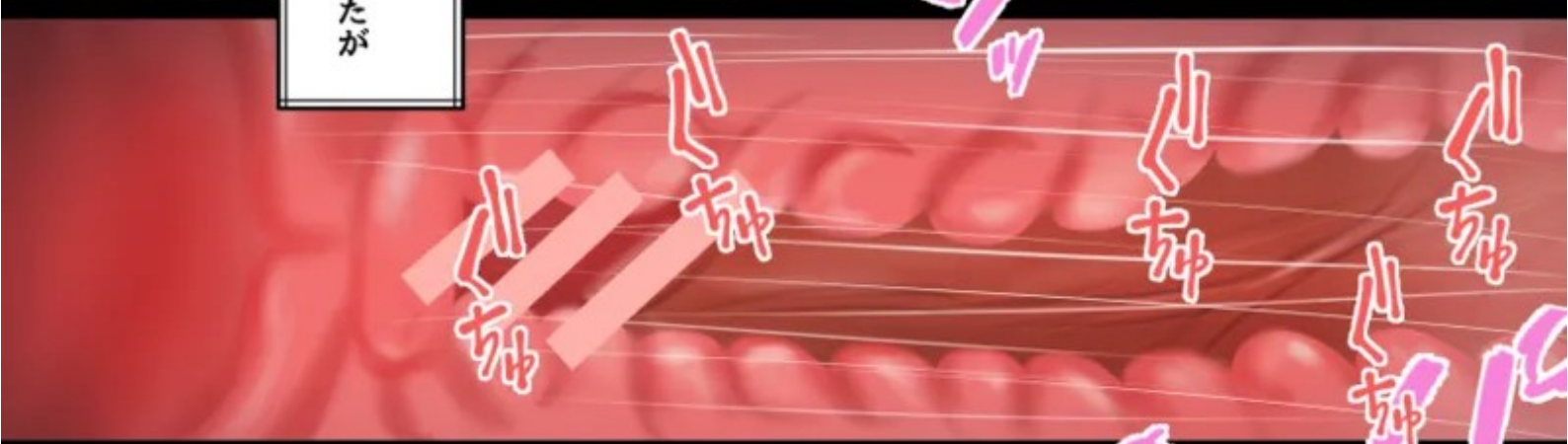
以前まで行為の最中は
ずっと耐え忍んで
いるようであったが、

今では自分と同様
この時間を楽しんでいる





自分にとって冬は
退屈で億劫な季節であったが



今年は彼女のおかげで
最高に楽しく過ごせている

彼女を買って
本当に良かった

ビュ
ル
ル
ル
ッ

ド
ク
ン
ド
ク
ン

ド
ク
ン







お
ちゅっ

お
ちゅっ

お
ちゅっ

お
ちゅっ

冬ごもりはようやく
半ばを過ぎたばかり



はぁっ

はぁっ

ぐり

ぐり



春が来るのはまだまだ先だ



あとがき

ご購入いただきありがとうございます。

本作はジャンルとしては奴隷もののつもりで描いてみたのですがどうだったでしょうか？

致し方ない状況で金品などを対価に一定期間身売る展開は個人的に奴隷ものだと思っています。

本当は1月末くらいに完成させて季節感を取り入れた作品にしたかったのですが...

途中でおっぱいのサイズを3カップくらい増やしたり色塗り終わった後で体位変更したりしているうちに冬が終わってしまいそうになってしまいました。

夏には今度こそ季節感のある作品を出します。

催眠×スイミングスクールで

「催眠ぐスクール」なんてどうかななんて考えていますが詳細は未定です。

他にもギャルものとかレイ○ものとか兄妹ものとかいろいろと描いてみたい癖があるので急遽変更するかもです。

気長に待っていただければ幸いです。

著者：栗山 ぼっち

発行月：2023/3

女の子を買って一緒に冬ごもりする話